

# 古きを訪ねて新ひきを知る3

文化財保護課 0224-6097

今と昔の交わる道

名細中学校南側の、市民の森の中を南北に通る道があります。九十メートルほどの長さがあり、U字型の掘割状に固められた痕跡を残す道は、中世、鎌倉街道の枝道として使われていたようです。奈良時代には、東山道武蔵路と呼ばれ、武蔵国と上野国を結ぶ路という、主要幹線道路として使われました。ここから北に向かったところにある下広谷地区には、古い街道という意味の「古海道」という地名や、大谷川に架かる橋に「鎌倉橋」という名前が残ります。こうした名前から、この道が昔から使われてきた道と知ることができます。



散歩道として活用され、「鎌倉道」の看板が建つ



昔の人々の息吹を感じられるかもしれません。

小江戸川越観光  
キャッチフレーズ

とき  
薫るまち  
川越

## 川越の茶



14世紀の書物には伊賀、大和、伊勢、駿河と並んで武蔵河越が銘茶五場の一つとして登場します。現在、河越茶は狭山茶という名前で広く知られています。福原地区の戸口さんは、市内に数軒ある茶業農家の1軒。訪ねたときは、一番茶の手

摘みが行われていました。茶の味は、木の種類、蒸し加減、茶葉の配合のしかた、入れ方などで変わるとか。おいしい茶は、積み重ねた研究の成果。「おいしかったから、また買いに来たよ」と、お客さんに言われた時は、本当にうれしく、茶作りに張り合いが出るそうです。今年の春は、寒



手摘みの茶の味は格別

### ☆おいしい茶の入れ方☆

- ①沸騰した湯を茶碗に注ぐ
  - ②適温の70度くらいまで冷ます
  - ③冷ました湯を急須に移す
  - ④最後の1滴まで絞る
- ！茶葉の量は1人分3gが目安

暖の差が大きく、渋さの中に甘みが増した茶が収穫できたようです。新茶が出回るこの時期、ぜひ河越茶を味わってみてはいかがでしょうか。

編集後記

## どんぐり

森に行く機会が何度かありました。森は森でも、山奥ではなく、市民の森。天気は、夏を先取りした暑い日だったり、風が強い日だったり。森は、射すような日差しを遮ることで、太陽光を十分の一ほどに弱め、やさしい木漏れ日に変えてくれます。木が発する水分も、涼しさに一役買っています。ひさしの日陰にはない、涼しさの違いは、こんなところにあるのかも。六月は環境月間。身の回りの環境を考えてみる機会です。外を見ると、照りつける日差しの中、プランターのゴーヤに目が留まりました。一瞬、ゴーヤと目が合ったような……。さあ、水やり、水やり。